



特定非営利活動法人 なんとなくのにお 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail info@nantonakuno.net

設立11年目をむかえて

2005年2月4日に栃木県の認証を受け、「NPO法人なんとなくのにお」が誕生しました。この通信(第38号)の発行日で11年目を迎えます。

設立時、活動目的を明確にするための「趣意書」を作りました。みんなで相談しながら書き上げた文書を読み返してみると、「いま望まれているのは、極端な富の偏りを排除し、自然環境と調和した、持続可能な世界を考える想像力、そして、その仕組みをどう作り上げていくのかという構想力です。教育システムもまた、社会の新たな価値基準を探し出すために、柔軟に変化していかなければなりません…」とあり、その後「生き方の多様性、学びの多様性を保証するために」と居場所の必要性を述べています。ずいぶん大風呂敷を広げたものです。それでも、お金のないNPOなりの小さな敷物を広げて10年間、ふと見回してみると、「東京シューレ」などフリースクールの周囲には、学びの場の多様化・個別化を求める大きな流れができてはおりませんか。

先月末の新聞に「フリースクール国が支援」という見出しとともに、「現在、フリースクールは国の制度に位置付けられておらず、制度化されれば、子どもを学校に通わせるよう親に義務づけた1941年以来の政策転換となる」という記事が載っていました(2015/1/31 朝日朝刊)。文科省は1992年に、学校外での学びについても在籍校の校長判断で出席扱いとできるよう通知を出しています。不登校の増加を受けて、緊急避難的に文科省が「学びの場」と認定した形のまま、フリースクールを終えても「卒業」とは認められない状態が20年以上続いていることとなります。今回のフリースクール等検討会議の設置は、その矛盾解消をめざした動きなのでしょう。福祉制度での予算削減が問題になっています。教員加配などで対応している「学校に合わない子に対する支援」を民間フリースクールへアウトソーシングすることでの



カット: numata

教育費削減が目的ではという心配もあります。検討会議の今後注目していきたいと思います。

日本の学校制度は、文科省が決めた「学習指導要領」にしたがって授業が計画されるという仕組みになっています。「指導要領」が変更されるごとに「伝達講習」が繰り返され、文科省の考えが教室に反映されます。子どもたちが交流し知識を得る場が学校だけであった時代には、均質な教育を確保するために仕方ないシステムだったのかもしれませんが、しかし、情報を伝える手段が多様化し、手軽にインターネットなどにアクセスできるいま、学校外のチャネルから子どもたちに流れ込む知識は飛躍的に増えています。そんな中、「これからはこういう教育だ」とほぼ10年おきに改訂される学習課程に合わせて学ぶことが、すべての子どもたちにとって良いことなのか疑問に思うときがあります。勉強の型枠に押し込められることがいやで、学びを放棄してしまう子はいないのだろうか…と。

さまざまな理由から学校に通うことが難しくなった子どもたちを「もうひとつの学びの場」で援助したいという思いから、「なんにお」が生まれました。学校という場を離れて、将来、社会で生きていく力をつけることは、しんどいことかもしれませんが、受験や就職という壁もあります。「居場所」に通う子どもたちが困難に直面しながら、少しずつ自信を付け、成長していく姿に接し、むしろ私たちが力づけられながら10年が過ぎました。(次ページへ)

目次

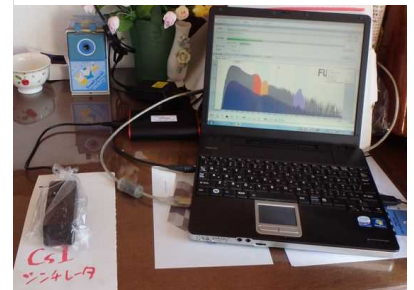
設立11年目をむかえて	1
東京シューレ30周年	2
川むしたんけん隊	2
活動日誌	3
さくらそう便り	3
こんな本はいかが・28	4

居場所のひとこま

報徳会館から新しい居場所へうつって1年と7か月ということで、居場所オープンデイを開催。ミニバザーや、子どもたちによるたこ焼き作り、蕎麦打ち体験に、ミニコンサート、利用者によるゴム鉄砲屋さん、おいしいそば料理、など、様々な催し物がおこなわれました。(N)



- 10月17日(金) 通信・なんとなくのひろば(第37号)発行
- 10月18日(土) 川むしたんけん隊(千本木行川橋から明神駅近くに変更)講師:塚崎庸子
- 10月23日(水) NPO等と行政との意見交換会・テーマ「教員の負担軽減」(手塚)
主催:栃木県県民生活部県民文化課(県庁昭和館にて)
- 11月 5日(水) 利用者関連の支援者会議に参加(日光市役所にて、白井、沼尾)
- 11月 9日(日) ワカモノフェスタ実行委員会
- 11月10日(月) 茶話会(第52回)
- 11月12日(水) 理事会(第62回)
- 11月22日(土) 居場所オープンデー
- 11月23日(日) ベリー会:月例会、学習会
- 11月24日(月) ワカモノフェスタ実行委員会
- 11月29日(土) ゆずりは講演会「発達障がい者の就労の現状」参加
高齢・障害・求職者雇用支援機構
鈴木瑞哉先生「一般職業適性検査(GATB)の見方」(くわはら)
- 12月 2日(火) ワカモノフェスタ準備(パンフレット印刷)
- 12月 3日(水) 利用者関連の支援者会議(日光市家庭児童相談所、白井)
- 12月 6日(土) ワカモノフェスタ前日準備
- 12月 7日(日) ワカモノフェスタ(サイエンス・カフェで参加)
- 12月 8日(月) 茶話会(第53回)
- 12月21日(日) ベリー会:月例会
- 12月26日(金) 居場所・大掃除/「学び」クリスマス+忘年会
- 1月10日(土) とちぎ就労支援リハビリテーション講習会参加(くわはら)
「なぜ障がい者を雇う中小企業は業績を上げ続けるのか?」影山摩子弥(横浜市大)
「高次脳機能障害のリハビリ、専門家が体験して」関啓子(神戸大)



オープンデーで展示した放射線測定器

さくらそう便り 昨年は、こんな研修会に参加しました。

【県西圏域連絡会】

- 5/16 障がい特性の理解(知的)
知的障害の基本的理解と療育手帳について とちぎリハビリテーションセンター:横島佑介
鹿沼希望の家の見学
- 6/20 障がい特性の理解(身体)
身体障害の特性に配慮した支援報告 シンフォニーあわの:相良相談支援専門員
身体障害者更生相談所の機能と福祉用具の上手な活用方法 とちぎリハセンター:作業療法士、理学療法士
「鹿沼シンフォニーあわの」見学
- 7/11 障がい特性の理解(精神)
精神障害についてについて 障害者相談支援センターせいわ:渡辺由季子
Aさんに聞く、生活のコツ(鹿沼病院リハビリテーションセンター Ciel)
- 8/8 スキルアップ研修 野中式事例検討-PLOW(上都賀庁舎)
- 9/19 ケアマネジメント(サービス等利用計画・アセスメント)
日光市障がい者相談支援センター菅井・金子・栗原、より道 福田礼子 場所:こうろく
- 10/17 ケアマネジメント(サービス等利用計画・プランニング)
日光市障がい者相談支援センター菅井・金子・栗原、より道 福田礼子 場所:愛晃の杜
- 11/14 ケアマネジメント(サービス等利用計画・モニタリング評価)
愛晃の杜 岩船 こうろく 中島 場所:リハビリテーションセンター
- 12/12 地域移行・定着について 県西健康福祉センター松村・富田、病院での取り組み・鹿沼病院・竹澤看護師
ワールドカフェ:みんなで地域移行をすすめよう
- [予定] 1/16:障がい特性の理解(発達障害)、2/27:障がい特性の理解(難病)、3/20:振り返り・次年度計画

他の研修

- 7/1 変革期を迎える精神障害者雇用と医療機関に望まれる対応
独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 福島障害者職業センター:相澤欣一
- 7/15 在宅ケアと多機能連携、小児から高齢者までの実践から
ひばりクリニック・認定特定非営利活動法人うりずん:高橋昭彦
- 8/28 こころの病気の特徴と対応-今市健康福祉センター:谷崎小有里
- 7/23 今市特別支援学校:高等部2年生進路相談会面接に参加
- 8/28 盲学校進路相談会面接に参加

特定非営利活動法人 なんとなくのにお通信

〒321-1261 栃木県日光市今市378
電話 090-3227-7079 / Fax 0288-21-2631
E-mail: info@nantonakuno.net
ホームページもご覧ください。
<http://www.nantonakuno.net/>



こんな本はいかが？ その 28: 浜田桂子さんの絵本

今回は、浜田桂子さんの絵本を紹介します。

◎ 「へいわってどんなこと？」 童心社 2011年

2011年に、日本・中国・韓国の12人の絵本作家が手をつなぎ、子どもたちに贈る平和絵本シリーズを作りました。浜田さんは、その中のお一人です。今の日本は平和ですが、世界のあちらこちらで戦争が起きています。大人も子どもも共に「平和」について考え続けることが大事です。是非、図書館などで手にとって見てください。

平和絵本シリーズの他の作品 全て童心社

「ぼくのこえがきこえますか」 田島征三・作
「くつがいく」 和歌山静子・作
「さくら」 田畑精一・作

中国の絵本作家の作品:

「京劇がきえた日」、「二まいのふるい写真のものがたり」、
「街のおもいで」、「きれいなくだもの」

韓国の絵本作家の作品:

「非武装地帯に春がくると」、「チュニというあかちゃん」、
「コッハルモニー花のおばあさん」、「少年十字兵」
(まだ制作途中の作品もあります。)

◎ 「てとてとてとて」 福音館書店 2002年

表紙裏の浜田さんの言葉から・「手は楽器 手は話す 手は読む」
本当に手はいろんなことをしているし、何気なく手がやっていることでも不思議なことがいっぱいあります。絵本の最後に書かれている言葉・「もしかしたら ては ころろが だったり はいったり するところなのかもしれない」 同感です。

◎ 「あげます。」 ポプラ社 2014年

この絵本は、「ママにだっこされて、へんなのが うちに きた。」ところから始まります。「ぼく」にとって、妹が突然やってきても、嬉しいことばかりではないのです。「へんなの」から「ぼくのいもうと」になるまでのお話です。初めてお兄ちゃんお姉ちゃんになるときは、複雑な思いがあるものですよねえ。(白井)

私たちの活動目的:

日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続性のある、支援と学びの場を作り出します。

私たちの事業:

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、自然環境保全の大切さを啓発する活動
- ⑦ 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業
- ⑧ 第二種社会福祉事業の相談支援事業経営

会員について

正会員: 43
賛助会員: 19
団体会員: 4
入会金はありません。

年会費(一口)
正会員 3,000円
賛助会員
個人 5,000円
団体 10,000円



私たちの活動は会費と寄付金でまかなわれています。会員を継続し、応援よろしく願います。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。皆様の積極的な参加をお願いいたします。

なんとなくのへや

数学の雑誌に「かけ算の順序問題」が議論されていた。「6人のこどもにひとり4こずつみかんをあげたい。みかんはいくつあればよいか」という問いがあったとする。
「 $6 \times 4 = 24$ で、みかんは24個」の解答に対して、これを不正解にすべきかどうかという論争である■小学校では「個数×人数」という指導をしているという。そういえば、半世紀前に受けた算数でそんな話を聞いた記憶がある■雑誌に寄稿した数学者は「どちらでもよいのに無駄なことを考えさせている」という意見であった。まったく無駄とも思わないが、「 6×4 は不正解」を強制するのは無理がある。「6人のこども」や「4個のみかん」から抽象した数を計算「 6×4 」に入力する。計算で得られた「24」を解釈によって「みかん24個」という現実に引き戻す■「計算」とは、値を入れれば答えが出てくるブラックボックスだ。交換関係が成り立つ「かけ算」では、順番はいつでもよいと思う。けれど、小学生に教えるときの方法論として工夫されたのが「順序を決める」というやりかたなのだろう。この「順序問題」、何人か集まったときに話題にするといろんな考えが出て面白そうだ。(T)